[2009.Jan.31]

[第１版]

千葉県環境生活部自然保護課
生物多様性戦略推進室
生物多様性センター
〒260-0852 千葉市中央区青葉町９５５－２　千葉県立中央博物館内
ＴＥＬ０４３－２６５－３６０１　ＦＡＸ０４３－２６５－３６１５

生命（いのち）のにぎわい調査団マニュアル

千葉県生物多様性センター

URL http://www.bdcchiba.jp/monitor/

はじめに

「生命のにぎわい」というのは、たくさんの種類の生物がバランスを保って一緒に生きている様子です。

この調査団は身近な生き物の調査を通じて、千葉県の生き物のこと、自然のことをもっともっと知ってもらうために、そしてどうしたら「生命のにぎわい」を守っていけるのかをみんなで考えるために発足するものです。

未来の子供たちに千葉県のすばらしい自然を引き継いでいくために、あなたも調査団の一員として、生き物調査を始めましょう。

もくじ

はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ページ 1

調査団員の皆さんへ、気をつけて・・・・・・ページ 2

調査対象生物・・・・・・・・・・・・・・・・・ページ 3

調査の仕方、報告の仕方・・・・・・・・・・ページ 4

調査対象生物の解説・・・・・・・・・・・・・ページ 5

同定のポイント・・・・・・・・・・・・・・・・ページ 11

淡水生物

メダカとカダヤシ

メダカを探していると高い確率でカダヤシに遭います。カダヤシはもともと北アメリカ中部を原産とするグッピーの仲間で、ボウフラを捕食し、水質浄化に役立つといわれ輸入されたものです。繁殖力が強くて、成長が早く、淡水魚の卵や稚魚をたくさん食べるので、特定外来生物に指定されています。

カダヤシの大きさはオス３ｃｍメス５ｃｍくらいで、メダカとほぼおなじ大きさ。上から見ただけではほとんど区別がつきません。一番わかり易いのが尻びれのかたち。メダカはオスもメスも同じ様な台形のかたちをしています。

スジエビ、ヌマエビ、テナガエビ

スジエビはテナガエビの仲間です。そのため手（第２胸脚）が長いのが特徴です。ヌマエビは手が短いので容易に見分けられます。スジエビは胴（頭胸甲）のスジの模様が漢字の「凶」という字に似ています。また胸脚の関節が黄色いことも特徴です。テナガエビは頭胸甲の前の方に肝上棘というとげがあります。スジエビにはこれが無いので、そこで見分けることも可能です。

海洋生物

ハリセンボン

ハリセンボンは熱帯域を中心にした暖かい海に生息し、房総半島周辺ではダイビングをしてもあまり見かけることはありません。ふつうサンゴ礁や岩礁で生活していますが、群れで沖合を移動することもあります。このため、水温が低下する晩秋から初冬には、ふだんハリセンボンが見られない地域の海岸に弱った個体が大量に打ち上げられることがあります（写真は千葉県勝浦市）。

製作協力者

高島斎二、望月正樹、森　将憲、山崎幸一、東邦大学：長谷川雅美、環境政策課：坂元　理、中央博物館：浅田正彦、天野　誠、大木淳一、大庭照代、尾崎煙雄、小田島高之、川瀬裕司、黒住耐二、桑原和之、駒井智幸、島立理子、中村俊彦、原　正利、古木達郎、御巫由紀、宮田昌彦、宮野伸也、自然保護課：鶴岡久光、篠原栄里子、生物多様性センター：熊谷宏尚、吉田明彦、忠田秀彦（順不同、敬称略）

このマニュアルを作成するにあたり、上記の方々に写真の提供や助言などご協力をいただきました。ありがとうございました。

編集担当：千葉県生物多様性センター　道本 昌信

爬 虫 類

種類	尾の長さ	その他の特徴
ニホントカゲ	胴体と同じくらい	体表はすべすべ。胴体の断面は丸く、四肢の指は細い。
ニホンヤモリ	胴体より短い	体表は粉を吹いたような灰色。指は真ん中が膨らみ、裏に吸盤がある。胴体は扁平。
ニホンカナヘビ	胴体より長い	体表はざらざら。胴体の断面は丸く、四肢の指は細い。

昆　　虫

鳴き声で確認

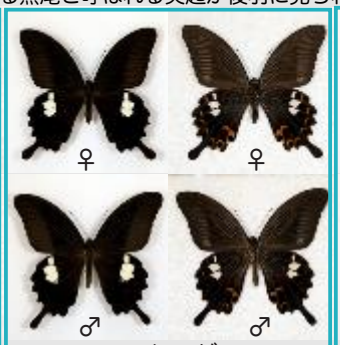
セミのヒグラシ、ミンミンゼミ、ツクツクボウシは初鳴きを確認して季節報告します。

種類	時期	時間帯	鳴き声
ヒグラシ	６月下旬～	朝と夕方	カナカナカナカナ・・・
ミンミンゼミ	７月中旬～	日中	ミーンミンミンミンミンミー
ツクツクボウシ	７月下旬～	日中	オーシィツクツクオーシィ・・・

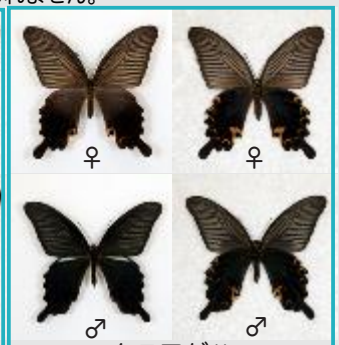
後羽の形で確認

ナガサキアゲハは大きなアゲハチョウですが、オスメスともに他のアゲハチョウに見られる燕尾と呼ばれる突起が後羽に見られません。

ナガサキアゲハ
（背）　（腹）



モンキアゲハ
（背）　（腹）



クロアゲハ
（背）　（腹）

ミノで確認

ミノムシの仲間は２０種類ほどいますが、ほとんどはオオミノガとチャミノガの幼虫です。同定は難しいので種類は考えずに報告してください。ただし、写真の場合は大きさの目印になるようなものを入れて撮影してください。写真が無い場合は大きさを計って報告してください。

植　　物

開花（紅葉・黄葉）時期で確認

種類	時期	開花（紅葉・黄葉）の判断
ウメ	１～２月	開花。咲き始めたら
ソメイヨシノ	３月末～４月初め	開花。５～６輪咲いたら
アジサイ	６～７月	開花。両性花が咲いたとき
ヒガンバナ	９月中旬	開花。群落で２～３開花した時
イチョウ	１１月	黄葉。緑の葉が無くなったとき
カエデ	１１月～１２月	紅葉。　〃
ビワ	１２月	開花。房で２～３開花した時

季節報告生物は毎年時期を調べて報告するもの、植物に関しては、できればこれという木や場所を決めて毎年報告してください。対象は庭木でもかまいません。

アジサイの両性花

調査団のみなさんへ

「生命（いのち）のにぎわい調査団」にご参加いただきありがとうございます。

このマニュアルを手にされたあなたは、自然にとても詳しい方でしょうか、それともこの機会に自然に触れてみようと思われた方でしょうか？いずれにしましても、これからの千葉県の自然を守るための基礎となる情報集めを進めていきましょう。

調査報告は地道な作業です。でも、多くの人が少しずつ積み上げていくことで、すばらしい成果につながると考えています。

このマニュアルは調査団の調査対象に指定した生物の簡単な説明と見分け方を説明したものです。不明な点は何なりと千葉県生物多様性センターまでお問い合わせください。

気をつけて

この調査はみなさんの日常生活の範囲から行ってください。

もちろん、調査団員それぞれが千葉県内で調査地域を広げることは、こちらとしてもぜひお願いしたいところですが、この調査のために決して無理をしないでください。危険なところや危険な生き物には十分注意して、事故やケガには遭われないようにしてください。万が一調査中に事故に遭われても、お世話することはできません。

とくに、小学生以下の団員のみなさんは先生やお父さんお母さんの注意を守って行動してください。

そして、あたりまえのこと。生き物を大切に。

調査対象生物

調査対象生物は、
・千葉県に昔からいて自然の豊かさの指標となる生き物
・開花、鳴き声等により季節の変化を感じさせる生き物
・地球温暖化の影響等により、近年千葉県でも見られる生き物
・海外から入ってきた生き物
の４つの視点から５７種類選定しました。
そして、それらを報告の方法により２つに分けました。

発見報告生物（見つけたら報告してもらうもの）

（千葉県にもともといた生き物）
イタチ、キジ、カワセミ、ミヤコドリ、オオバン、セッカ、アマサギ、ニホンアカガエル、ヤマアカガエル、アズマヒキガエル、モリアオガエル、トウキョウサンショウウオ、アカハライモリ、ニホントカゲ、ニホンヤモリ、ヤマトタマムシ、ミノムシ、ハマヒルガオ、キンラン、ヤマユリ、リンドウ、メダカ、スジエビ、サワガニ、ハリセンボン、スベスベマンジュウガニ、マツモ（海藻）

（最近、千葉県に入って来た生き物）
アライグマ、イノシシ、ナガサキアゲハ、クマゼミ、コジュケイ、ウシガエル、アフリカツメガエル、ヌマガエル、オオキンケイギク、オオフサモ、ナガエツルノゲイトウ、ブルーギル、スクミリンゴガイ、サキグロタマツメタガイ、ツマジロナガウニ

季節報告生物（その年、最初に気づいた時報告してもらうもの）

（鳴き声、営巣、飛翔、産卵、はやにえ）
ウグイス（初鳴）、ツバメ（初飛･巣）、ホトトギス（初鳴）、モズ（高鳴･はやにえ）、アズマヒキガエル（卵）、モリアオガエル（卵）、アカガエル類（卵）、トウキョウサンショウウオ（卵）、ヒグラシ（初鳴）、ミンミンゼミ（初鳴）、ツクツクボウシ（初鳴）

（開花、紅（黄）葉）
ウメ（開花）、ソメイヨシノ（開花）、アジサイ（開花）、ヒガンバナ（開花）、イチョウ（黄葉）、カエデ（紅葉）、ビワ（開花）

マツモ（海藻） 北方種

【全長】１０～２５ｃｍ。【体色】緑褐色。【特徴】主軸から松の葉のような棘状の小枝が多数ついている。北方性の海藻で、千葉県では銚子だけに見られる。

海洋生物

同定のポイント

哺乳類

シルエット（影）で確認

足跡で確認

種類	指の数	爪跡	踵をつく
アライグマ・ハクビシン	5	○	○
タヌキ・キツネ・イヌ	4	○	×
ネコ	4	×	×
イタチ・アナグマ・テン	5	○	×

アライグマの後ろ足先

鳥類

鳴き声で確認

季節報告では初鳴き、営巣、初飛、はやにえなどを調べます。ウグイス、ホトトギス、モズの３種類は鳴き声を今年初めて確認したときに報告してください。営巣と初飛はツバメです。他の鳥も姿だけでなく鳴き声で探してみてください。特に茂みや樹のこずえに隠れている鳥は鳴き声で確認することも多いと思います。また、モズのはやにえも見つけたら報告願います。

種類	さえずり
ウグイス	ホーホケキョ　チャチャチャ
キジ	ケーン　ケーン
コジュケイ	ピッポポーイ
セッカ	ヒッヒッヒッ　チャチャチャ
ツバメ	ツピーツピー　チュビ　チュビ
ホトトギス	テッペンカケタカ　ホトトケサ
モズ	キエキエキエキエ　ギギギギギキ・・・・

両生類

鳴き声で確認

鳥と同じように鳴き声で探せます。鳴き声の特徴だけでなく季節も違います。

種類	時期	鳴き声
ニホンアカガエル	２月	ココ　ココココ・・・
アズマヒキガエル	３月	ゴゴ　ゴゴゴ・・・
モリアオガエル	４～７月	クリリ・・・クリリ・・・
ウシガエル	５～９月	ボゥ・・・ボゥ・・・

卵で確認

アズマヒキガエル、モリアオガエル、アカガエル類、トウキョウサンショウウオの４つは卵を見つけて季節報告してください。ニホンアカガエルとヤマアカガエルは生息域が重なり、卵では見分けがつきにくいのでアカガエル類として報告します。

種類	時期	特徴
アカガエル類	１～４月	止水域に寒天質に包まれた丸い卵の丸い卵塊
アズマヒキガエル	３～４月	止水域に寒天質に包まれた長い紐状の卵のう
モリアオガエル	５～７月	止水域の上に突き出た木の枝に白い泡状の卵塊
トウキョウサンショウウオ	１～４月	三日月状の対になった寒天質の卵のう

アカガエル類の卵

アズマヒキガエルの卵

モリアオガエルの卵

トウキョウサンショウウオの卵

淡水生物

海洋生物

メダカ RDB(B)

【体長】約３ｃｍ。【体色】焦げ茶色がかった灰色からうすい灰色。【特徴】頭部は縦扁して、両眼間は平ら。特定外来生物のカダヤシに良く似る
(同定のポイント参照)。

スジエビ

【体長】約５ｃｍ。【体色】体は透明で内蔵が透けて見える。全体に黒い横縞模様が入る。【特徴】腹部中央が湾曲する。テナガエビ類やヌマエビ類と似ている(同定のポイント参照)。

サワガニ RDB(C)

【甲幅】約３ｃｍ。【体色】黒褐色、青色など。千葉県のはほとんど青色。【特徴】甲は丸みを帯び、背面は盛り上がる。表面は滑らかで突起や毛は無い。オスははさみの大きさに差があり、一般的に右が大きい。

ブルーギル

【体長】約２０ｃｍ。【体色】淡い緑褐色で、不鮮明な縞模様がある。【特徴】体は円形に近く平たい。

スクミリンゴガイ

【殻高】約３ｃｍ。【殻色】濃い茶褐色～暗褐色。【特徴】ジャンボタニシとも呼ばれる。タニシ類に良く似ているが、殻が球形に近く、殻の色も褐色を帯びることで区別できる(写真の右上がスクミリンゴガイ)。卵塊は鮮やかな紅色。

ハリセンボン

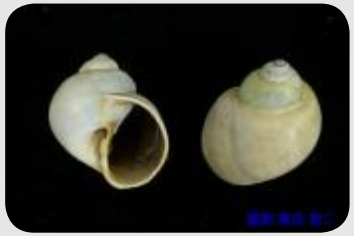
【体長】約２５ｃｍ【体色】褐色系で全体に小さな黒斑がたくさんある。【特徴】ネズミフグによく似るが、ひれに斑点が無いことで容易に区別できる。太平洋側の海岸に打ち上げられることがある(同定のポイント参照)。

スベスベマンジュウガニ

【甲幅】約５ｃｍ【体色】赤褐色から紫褐色で灰白色の斑紋がある。はさみの先は黒い。【特徴】名の通り甲羅はすべすべしていて、全体に滑らかで丸みを帯びている。肉に毒がある。

ツマジロナガウニ

【殻径】約４ｃｍ。【体色】殻は黒く、棘は緑褐色で先端が白い。【特徴】殻の輪郭が楕円形で、容易に他種と区別できる。



サキグロタマツメタガイ

【殻高】約５ｃｍ。【殻色】灰褐色から紫褐色。殻の先は黒い。【特徴】在来種のツメタガイは殻高が低く、黄褐色でへそ穴に突出部を持ち、時に８ｃｍ程度にもなるので容易に区別できる。

調査の仕方

調査はみなさんの身近なところ、もしくは普段よく行くところで行ってください。

発見対象生物を発見したら、間違いないか、まず証拠を確認してください。カメラやビデオで映像を撮られたり、録音機で鳴き声を撮るのも良いかと思います。それらのものが無い場合は姿や鳴き声の特徴を観察して確かめます。正しい情報を積み上げてこそ価値のあるものなので、このところは慎重にお願いします。

発見対象生物はその生き物そのもの以外にも、野生哺乳類なら足跡や糞などの痕跡も有効です。基本的に警戒心の強い野生哺乳類は姿を見ることが難しく、まして写真を撮るなど至難の業です。鳥もまた警戒心が強いので、姿を遠くから見かけたり声を聞いても、その証拠に写真を撮ったり、録音することは特殊な機械や技術を要します。

次に発見した位置を確認します。ハンディＧＰＳ(位置情報システム)、ＧＰＳ機能付き携帯端末などの機械があればいいですが、無い場合は地理的目印を見つけて地図上で特定できるようにしてください。移動量の大きい生き物は厳密なものは無くてもいいですが、移動量の少ないもの、希少種の情報などはできるだけ正確なものが、今後の保護活動に役立てる意味でも必要です。

報告の仕方

ホームページから報告

ホームページから報告する場合は、団員ＩＤとパスワードを使って、まず報告用のページに入ります。次に報告用のフォームを使って必要事項を入力してください。

最後に送信ボタンを押すと情報がメールとして生物多様性センターの調査団担当宛に送付されます。生き物の位置情報など、貴重な情報が漏れないようにセキュリティを高めてありますのでご安心ください。

また、Ｇｏｏｇｌｅマップを利用して位置情報を取得できます。画像や音声データは一度に３つまで添付できます。受け側での容量制限はありません。基本的に報告する生物のデータを添付してください。添付データはそれぞれにデータ利用に関する選択肢がついています。千葉県でデータをホームページやポスター等に利用してよい場合は「使用可」を、だめな場合は「使用不可」をそれぞれ選択してください。

郵送・ＦＡＸによる報告

郵送・ＦＡＸでの報告を希望される場合は、別途報告用紙を送付いたします。

また、発見した位置について、緯度経度情報が得られない場合は、お申し出いただければその付近の地図のコピーを送付いたします。

映像・音声データはＣＤ－Ｒ等のメディアで郵送してください。メディアは後ほど返送いたします。写真はプリントアウトしたものでも結構です。

哺乳類

鳥類

調査対象生物の解説

各生物の名前の横にいろいろなマークがついています。それぞれの意味は下の通りです。

発見報告生物
見つけたら報告する生き物

外来生物
人間活動によって明治時代以降他地域から入ってきた生き物

南方種
地球温暖化等の影響によって南の方から入ってきた生き物

季節報告生物
開花、初鳴きなどその年始めて気づいたら報告する生き物

特定外来生物
特定外来生物法により指定された悪影響の大きい外来生物

園芸種
園芸を目的として野生種から改良された植物

RDB(＊) 千葉県レッドデータブックのカテゴリー
＊には保護上の重要性に応じてX(消息不明・絶滅生物)、A(最重要保護生物)、B(重要保護生物)、C(要保護生物)、D(一般保護生物)の評価基準が入る。

アライグマ

【頭胴長】約55cm。【体重】5～8kg。【毛色】灰褐色。【特徴】尾に褐色の濃淡の縞模様がある。目の周りから頬にかけてサングラスをかけたような黒い斑紋がある。ひげと耳のふちが白色。手足とも5本指、爪は隠れない。

イタチ

【頭胴長】オス25～35cm メス15～25cm。【体重】オスで2kg以下。メスはその1／3。【毛色】黄赤褐色。【特徴】しなやかで細長い胴体に短い四肢を持ち、鼻先の尖った頭部には丸く小さな耳がある。

イノシシ

【頭胴長】オス120～170cm。メス100～150cm。【体重】80～200kg。【毛色】灰褐色。【特徴】千葉県に古くからいたイノシシは絶滅し、現在のイノシシは狩猟目的で放獣されたものが定着したと考えられている。

キジ

【全長】オス約80cm。メス約60cm。【体重】オス0.8～1.1kg。メス0.6～0.9kg。【羽色】オスは翼と尾羽を除き全体に緑色をしており、眼の回りが赤色。翼と尾羽は茶褐色。メスは全体に茶褐色で、ヤマドリのメスに似る。【特徴】オスは「ケーン　ケーン」と大きな声で鳴く。

コジュケイ

【全長】約27cm。【羽色】全体に褐色系の色彩。オスメス同色。頬から喉、翼の基部は鮮やかな赤褐色。【特徴】キジやヤマドリと違い尾は短い。ウズラより大型。「ピッポポーイ」と鳴く。

カワセミ

【全長】約17cm。スズメほどの大きさ。【くちばし】太く長め。オスは上下とも黒、メスは上が黒、下が赤。【羽色】頭、頬、翼は青く、背中は水色。頭と翼には鱗のような模様がある。目の前後侈色の線が入り、そこから続いて首の後ろに向かって白い線が続く。またのどの辺りも白い。胸から腹にかけては橙色。足は赤い。

植物

ウメ（開花）

【形状】樹高5～6mの落葉高木。枝にとげがある。一重は花弁が5枚。八重もある。【花色】白色、淡紅色、紅色。【花径】2～3cm。【花期】1月～2月。

ソメイヨシノ（開花）

【形状】エドヒガン系のコマツオトメとオオシマザクラの交配で生まれた園芸品種。樹高約7mの落葉高木。花弁は5枚で葉が出る前に満開となる。【花色】白色～淡紅色。【花径】3～4cm。【花期】3月末～4月初め。

アジサイ（開花）

【形状】樹高1～2mの落葉低木。葉は葉脈のはっきりした卵形で周囲が鋸歯状の光沢のある淡緑色。【花色】白色、水色、赤紫色、青紫色などに変わる。そのため「七変化」と呼ばれる。【花径】一般に花と呼ばれる部分は装飾花で、花びらに見えるものは萼(ガク)である。萼の大きさは2.5～4cm。【期】6月～7月。開花日は両性花の開花した日。

イチョウ（黄葉）

【形状】樹高約30mになる落葉大高木。葉は扇型で短い枝に群がって付く。雄雌異株。【花期】4月。【黄葉】11～12月。黄葉日は全ての葉が黄色くなった日。

ヒガンバナ（開花）

【形状】丈30～50cmの花茎が突出して6枚花弁の放射状の花を咲かせる多年生球根植物。葉は開花後に生える。【花期】9月中旬。開花日は群落のうち2～3の花が咲いた日。

リンドウ

【形状】草丈約50cmの多年生草本。葉は細長く対生する。花は釣鐘状で茎の先に上向きにいくつもつく。【花色】紫色。【花期】9月～11月。

イロハモミジ（タカオカエデ）（紅葉）

【形状】樹高10～15mの落葉高木。葉は通常7つに深く裂ける。【花期】4月～5月。【紅葉】11月～12月。紅葉日は木に緑色の葉がひとつもなくなり、全ての葉が紅葉した日。

ビワ（開花）

【形状】樹高約10mの常緑低木。葉は約20cmの楕円形で、厚く硬く互生する。【花色】白色。【花径】1.5～2cmの花が房状に咲く。【花期】11月～12月。開花日は木全体で2～3の房が開花し始めた日。

昆虫植物

クマゼミ

【体長】6～7ｃｍ。【体色】翅は透明で、背中はつやのある黒色。腹部の中程に白い横斑が２つある。【特徴】最も大型のセミでアブラゼミやミンミンゼミに比べ頭部の幅が広い。午前中早い時間と夕方に「シャオシャオシャオ」と喧しく鳴く。

ヒグラシ（初鳴）

【体長】オス２．８～３．８ｃｍ。メス２．１～２．５ｃｍ。【体色】翅は透明で、体色はほとんど赤褐色だが、頭部の複眼付近、前胸の縁と背面中央は緑色をしている。【特徴】夜明けと夕暮れに「カナカナカナ・・・」と甲高く鳴く。

ミンミンゼミ（初鳴）

【体長】３．３～３．６ｃｍ。【体色】翅は透明で、胸部と腹部の境界付近が白い他は、通常黒地に水色と緑の斑紋がある。【特徴】午前中によく鳴き、「ミーンミンミンミンミンミンミー」という鳴声を繰り返す。

ツクツクボウシ（初鳴）

【体長】約３ｃｍ。【体色】翅は透明。細身で黒っぽく、緑色の斑紋がある。【特徴】「オーシィツクツクオーシィ・・・」という鳴声を繰り返す。一日中鳴くが特に夕方よく鳴く。

ハマヒルガオ RDB(B)

【形状】茎は砂の上を這う多年生草本。葉は光沢があり、肉質で腎心形で先端がややへこむ。【花色】淡紅色。【花径】４～５ｃｍ。【花期】５～６月。

キンラン RDB(D)

【形状】中型の多年生草本。高さ３０～７０ｃｍ。葉は単葉で互生。花は全開せず花弁６枚で総状につく。【花色】黄色【花径】１ｃｍ。【花期】４～５月。

ヤマユリ

【形状】草丈１～１．５ｍの球根植物。花は１～１０個程度咲かせる。【花色】白色。花弁の内側中心には黄色い線と紅色の斑点がある。自生の花の中では例外的に甘く濃厚な強い香りを放つ。【花径】１０～１８ｃｍ。【花期】７～８月。

オオフサモ

【形状】南アメリカ原産の多年生の水生植物。茎は水中を分枝しながら広がり、３～７個の羽状葉を輪生する。【花色】淡緑白色。【花径】５ｍｍ程度。【花期】４～７月。

オオキンケイギク

【形状】草丈３０～７０ｃｍになる多年生草本。【花色】黄燈色。【花径】５～７ｃｍ。【花期】５～７月。【特徴】花はキバナコスモスに良く似るが、葉と種の形状が異なる。

ナガエツルノゲイトウ

【形状】南アメリカ原産の草丈３０～５０ｃｍになる水辺に生える多年生草本。【花色】白色。【花径】約５ｍｍの球状。【花期】６～１０月。

鳥類

ミヤコドリ RDB(A)

【全長】４３～４５ｃｍ。【羽色】体上面が黒く、腹から下尾筒が白い。くちばしはオレンジ色で、脚は鮮やかな朱色を呈す。【特徴】ハトより大型。

オオバン

【全長】約４０ｃｍ。【羽色】体全体が黒く、おでこの部分が白い。【特徴】クイナの仲間では最大。

セッカ RDB(D)

【全長】約１２．５ｃｍ。【羽色】上面が黄褐色に黒褐色の縦斑、下面が淡い黄褐色、尾羽は黒褐色で先端が白。冬羽は頭頂も黄褐色に黒褐色の縦斑になる。オスメス同色。【特徴】日本で最も小さい鳥の一種。スズメより小さい。「ヒッヒッヒッ　チャチャチャ」と鳴く。

アマサギ

【全長】約５０ｃｍ。【羽色】全身の羽毛が白い。夏羽は頭・首・背中の羽毛が褐色の飾り羽になる。【特徴】コサギより小さい。くちばしはやや短い。

ウグイス（初鳴）RDB(D)

【全長】オス約１６ｃｍ。メス約１３ｃｍ。【羽色】体は茶褐色、淡い眉斑がある。【特徴】尾が長い。２月初め頃里に降りて「ホーホケキョ」と鳴く。

ツバメ（初飛・営巣）RDB(D)

【全長】約１７ｃｍ。【羽色】体上部は黒色、腹部は白色、額と喉は赤褐色。【特徴】二股の長い尾羽（燕尾）を持つ。４月頃飛来し、民家の軒下などに巣を作る。

ホトトギス（初鳴）RDB(C)

【全長】約２８ｃｍ。【羽色】頭部と背中は灰色で、翼と尾羽は黒褐色、胸と腹は白色で黒い横しまが入る。眼の回りは黄色。【特徴】ヒヨドリよりもわずかに大きく、ハトより小さい。５月頃飛来し「テッペンカケタカ　ホトトケサ」と鳴く。

モズ（高鳴・はやにえ）

【全長】約２０ｃｍ。【羽色】羽色はオスメスともに赤褐色。オスはくちばしから目を通る過眼線が黒く、翼に白斑があり、メスは過眼線が茶色く、腹部に波模様がある。【特徴】体はスズメよりも大きい。物まねが上手で名前の百舌（モズ）はそれに由来する。秋に甲高い声で「キエキエキエキエ　ギギギギキギ‥」と鳴く。

ニホンアカガエル (卵)RDB(A)

【体長】オス3.4～6.3ｃｍ。メス4.3～6.7ｃｍ。【体色】鮮やかな赤褐色。【特徴】ヤマアカガエルと違い背側線がまっすぐで鼓膜の後ろでもほとんど曲がらない。1～4月頃、止水域にゼリー状の膜に包まれた丸い卵の丸い卵塊を産む。

ヤマアカガエル (卵)RDB(C)

【体長】4.2～7.8ｃｍ。【体色】褐色、赤褐色または暗褐色と個体により変化に富む。【特徴】ニホンアカガエルと違い背側線が鼓膜の後ろで外側に大きく曲がり込む。卵はニホンアカガエルに同じ。

アカハライモリ RDB(A)

【体長】オス8～10ｃｍ。メス10～13ｃｍ。【体色】背が黒く、腹が赤い。【特徴】短い足と長い尾。皮膚がざらざらしている。

アフリカツメガエル

【体長】オス約6ｃｍ。メス7～10ｃｍ。【体重】オス50ｇ前後。メス60～120ｇ。【体色】褐色に暗褐色の斑紋。【特徴】四肢は体の側面から真横に出て、体全体も扁平な形をしている。南アフリカ原産で後肢の三本指に黒い爪を持つ。

ウシガエル

【体長】11～18ｃｍ。【体重】500～600ｇ。【体色】オスの背面は暗緑色で淡黒色の斑紋がまばら、メスの背面は褐色で斑紋が多い。腹面はどちらも白いが、オスは喉の部分が黄色くなる。【特徴】鼓膜が大きい。オスで眼の2倍、メスで眼の大きさ。鳴声はウシに似る。

ヌマガエル

【体長】3～5ｃｍ。メスの方がやや大きい。

【体色】背面は灰褐色の斑紋状で、腹面は白色。背中に白い背中線を持つ個体がある。【特徴】背中にイボ状の小突起を持つ。ツチガエルに良く似るが、お腹が白く、イボが小さくすべすべしている。

アズマヒキガエル (卵)RDB(C)

【体長】9～15ｃｍ。【体色】茶褐色。【特徴】体は頑丈。四肢は短く背中に大小の隆起を持ち毒液を分泌する。特に鼓膜の上にある耳腺は大きく発達している。3～4月に止水域に長い紐状の卵塊を産む。

モリアオガエル (卵)RDB(C)

【体長】オス4～7ｃｍ。メス6～8ｃｍ。【体色】体色は緑色。地域や個体によって背面や四肢に黒褐色の不規則な斑紋がある。【特徴】眼の虹彩は赤みがかる。5～7月頃、池や沼などの水域に張り出した木の枝などに泡に包まれた卵塊を産みつける。

トウキョウサンショウウオ (卵)RDB(B)

【体長】7～13ｃｍ。【体色】体色は黒褐色。【特徴】尾は体長より短く、四肢も小型。体側面にスジが入る。1～4月、山間の止水域に産卵する。卵のうは透明でバナナ型。

ニホントカゲ RDB(B)

【【体長】16～25ｃｍ。【体色】体色は茶褐色。体側には暗褐色の線がある。幼生は黒褐色の体に5本の金色の線があり、尾が鮮やかな青色。オスは3年で、メスは4年でそれぞれ成熟する。【特徴】ニホンカナヘビに比べると体が太く、背面は滑らかな鱗に覆われつやがある。指は糸の様に細く、尾は頭胴長と同じか若干長い(ニホンカナヘビはさらに長く、ニホンヤモリは短い)。身の危険を感じると尾を切り逃げる。

撮影：熊谷拓之

ニホンヤモリ RDB(D)

【体長】10～12ｃｍ。【体色】体色は灰色もしくは褐色で、不鮮明な暗色の斑紋が混じる。環境に応じて体色の濃淡を変化させる事ができる。【特徴】体は扁平で壁の隙間等狭い場所に潜る事ができる。また、指は真ん中が膨らみ紅葉の葉の形をしている。指の裏が吸盤の様な働きをして壁面に張り付いて生活できる。ニホントカゲ同様、身の危険を感じると尾を切り逃げる。

ナガサキアゲハ

メス(背面)

【前翅長】6～8ｃｍ。【翅色】オスはほぼ全体が黒く、後翅外縁にわずかに赤い斑点がある。メスは後翅の中央部に白の細長い斑点が数個外向きに並び、その外縁には赤い環状紋が並ぶ。【特徴】アゲハチョウ属の中でも翅が大きくて幅広く最大級。オスはクロアゲハ、メスはモンキアゲハに似るが尾状突起が無い事で区別できる。

撮影：望月正樹

ヤマトタマムシ

【体長】3～4ｃｍ。【体色】全体に金属光沢のある緑色で、背中には虹のような縦縞が入る。【特徴】タマムシ科に属する細長い米型の甲虫。前翅の色は死んでも変化せず工芸品に使われる。

オオミノガ (ミノムシ)

【体長】終齢幼虫は3.5～5ｃｍ。メス成虫は2.7～3.5ｃｍ オス成虫は3～4ｃｍ。ミノの長さは2～3.5ｃｍ【特徴】幼虫は枯れ葉や枯れ枝に粘着性の糸を絡めて袋状の巣を作って枝からぶら下がる。これをミノと呼ぶ。オスは羽化して蛾になるが、メスは羽化してもミノから出ず翅や脚を持たない。ミノを作るガはこの他に10数種類あるが、主なものはこのオオミノガとチャミノガになる。オオミノガは中国から渡ってきた寄生バエの影響で一時期激減した。ガの種類は問わないので、ミノを発見したら報告する。ミノのサイズが判る様に報告すること。